



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月5日

上場会社名 荒川化学工業株式会社 上場取引所 東
コード番号 4968 URL <https://www.arakawachem.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宇根 高司
問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理本部長(氏名) 延廣 徹 (TEL) 06-6209-8500
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	53,713	△12.5	△1,914	—	△1,503	—	△582	—
2023年3月期第3四半期	61,400	2.4	△990	—	△609	—	△2,721	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,103百万円(—%) 2023年3月期第3四半期 △1,651百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年3月期第3四半期	円 銭 △29.35	円 銭 —
2023年3月期第3四半期	円 銭 △137.17	円 銭 —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年3月期第3四半期	百万円 124,937	百万円 56,660	% 44.2
2023年3月期	百万円 119,035	百万円 56,509	% 45.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 55,189百万円 2023年3月期 54,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 48.00
2024年3月期	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
2024年3月期(予想)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,000	△9.4	△2,400	—	△2,100	—	△900	—	△45.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	20,652,400株	2023年3月期	20,652,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	813,491株	2023年3月期	813,491株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	19,838,909株	2023年3月期3Q	19,838,991株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、一部の地域を除き緩やかに持ち直しているものの、依然として地政学リスクの高まりや、原油・エネルギー価格の高止まり、各国の金融政策に伴う影響、中国経済の先行き懸念などが景気の下振れリスクとなっております。また、国内経済においても、景気は緩やかに回復し、自動車などの生産は持ち直しの動きがみられます。しかしながら、海外景気の下振れや為替変動、物価上昇などのリスクに留意することが必要な情勢が続いています。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2021年度よりスタートしました第5次中期5ヵ年経営実行計画の方針（KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成）に沿った重点施策を進め、コア技術・素材を中核とした事業ポートフォリオ改革や新事業の創出などによる持続可能な地球環境と社会を実現するための取り組みに注力しております。業績面では、高付加価値製品の拡販、収益改善策に取り組んでおりますが、スマートフォンの販売不振などによる電子部品の需要環境低迷や原材料価格・エネルギーコストの高止まりが収益性に影響しております。また、2023年5月下旬から連続運転を開始した千葉アルコン製造株式会社の減価償却費負担が大きく影響しておりますが、中長期的な成長市場の需要に応えるべく、水島工場と合わせた2拠点供給体制によるグローバル販売戦略の再構築を進め、水素化石油樹脂の安定供給と収益性の向上を図ってまいります。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は537億13百万円（前年同期比12.5%減）、営業損失は19億14百万円（前年同期は営業損失9億90百万円）、経常損失は15億3百万円（前年同期は経常損失6億9百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は5億82百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失27億21百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

<機能性コーティング事業>

電機・精密機器関連業界は、中国における景気低迷などを背景としたスマートフォン、PC、家電の生産調整により、電子部品などの需要が低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂は売上高が減少しましたが、スマートフォンやディスプレイ関連分野での在庫調整が一巡し、需要回復の兆しが見られました。また、印刷インキ用樹脂は出版分野の市場縮小が加速しており、売上高は減少しました。

その結果、売上高は110億51百万円（前年同期比8.7%減）、セグメント利益は3億25百万円（同17.4%減）となりました。

<製紙・環境事業>

製紙業界は、eコマース（電子商取引）市場の世界的な成長にともない堅調に推移していた段ボール原紙など板紙の国内需要が前下期以降低調に推移しています。このような環境のもと、当事業におきましては、国内では原材料価格・エネルギーコストの高止まりや需要低迷の影響を受けましたが、海外での板紙向け紙力増強剤が堅調に推移し、収益性が改善しました。

その結果、売上高は155億62百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益は9億8百万円（同229.8%増）となりました。

<粘接着・バイオマス事業>

粘着・接着剤業界は、世界的には紙おむつ向け接着剤の需要が堅調に推移しました。自動車関連分野では生産・販売が回復傾向にあります。このような環境のもと、当事業におきましては、ロジンや石化原料の価格の高止まりに加えて、販売が低調に推移しました。

その結果、売上高は188億43百万円（前年同期比19.6%減）、千葉アルコン製造株式会社における減価償却費が大きく影響したことから、セグメント損失は27億96百万円（前年同期はセグメント損失19億59百万円）となりました。

<ファイン・エレクトロニクス事業>

電子工業業界は、中国における景気低迷などを背景としたスマートフォン、PC、家電、HDDの生産調整により、電子部品などの需要が低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、ファインケミカル製品や精密研磨剤、精密部品洗浄剤などが低調に推移しました。

その結果、売上高は81億96百万円（前年同期比17.0%減）、セグメント損失は2億6百万円（前年同期はセグメント利益3億74百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ59億2百万円増加し、1,249億37百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が12億35百万円、受取手形及び売掛金が23億67百万円、投資有価証券が24億43百万円増加したことによります。

負債は、短期借入金が28億41百万円減少しましたが、長期借入金が95億58百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ57億51百万円増加し、682億77百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が減少したものの、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1億51百万円増加し、566億60百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月2日に公表しました2024年3月期の通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（2024年2月5日）発表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(参考) 「通期業績予想の修正に関するお知らせ」(2024年2月5日公表)

2024年3月期通期業績予想数値の修正(2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	73,000	△2,900	△2,800	△1,700	△85.69
今回修正予想(B)	72,000	△2,400	△2,100	△900	△45.37
増減額(B-A)	△1,000	500	700	800	—
増減率(%)	△1.4	—	—	—	—
(ご参考)前期通期実績 (2023年3月期)	79,431	△2,907	△2,687	△4,941	△249.08

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,140	12,375
受取手形及び売掛金	23,461	25,829
電子記録債権	1,965	2,477
商品及び製品	12,609	13,064
仕掛品	1,649	1,516
原材料及び貯蔵品	9,954	9,302
その他	2,129	1,337
貸倒引当金	△110	△111
流動資産合計	62,799	65,791
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,628	17,063
機械装置及び運搬具（純額）	14,809	13,662
土地	4,993	5,001
建設仮勘定	2,927	3,750
その他（純額）	1,083	1,183
有形固定資産合計	40,442	40,662
無形固定資産	1,678	1,609
投資その他の資産		
投資有価証券	7,837	10,281
退職給付に係る資産	3,895	4,098
繰延税金資産	231	282
その他	322	345
貸倒引当金	△75	△81
投資その他の資産合計	12,210	14,926
固定資産合計	54,331	57,197
繰延資産		
開業費	1,904	1,948
繰延資産合計	1,904	1,948
資産合計	119,035	124,937

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,973	9,876
電子記録債務	1,074	1,313
短期借入金	19,645	16,804
1年内償還予定の社債	-	5,000
未払法人税等	336	323
未払消費税等	67	247
賞与引当金	1,036	629
修繕引当金	414	705
事業整理損失引当金	1,179	606
設備関係支払手形	219	268
その他	8,167	6,642
流動負債合計	42,113	42,418
固定負債		
社債	10,000	5,000
長期借入金	5,407	14,965
繰延税金負債	2,372	2,996
退職給付に係る負債	298	316
資産除去債務	2,161	2,394
その他	172	185
固定負債合計	20,412	25,858
負債合計	62,526	68,277
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,343	3,343
資本剰余金	3,564	3,564
利益剰余金	40,922	39,387
自己株式	△1,211	△1,211
株主資本合計	46,618	45,083
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,933	4,658
為替換算調整勘定	2,819	3,903
退職給付に係る調整累計額	1,710	1,544
その他の包括利益累計額合計	7,464	10,106
非支配株主持分	2,426	1,470
純資産合計	56,509	56,660
負債純資産合計	119,035	124,937

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	61,400	53,713
売上原価	51,453	45,048
売上総利益	9,946	8,664
販売費及び一般管理費	10,936	10,579
営業損失(△)	△990	△1,914
営業外収益		
受取利息	20	68
受取配当金	211	195
不動産賃貸料	77	35
為替差益	577	254
その他	115	189
営業外収益合計	1,002	743
営業外費用		
支払利息	154	236
修繕引当金繰入額	384	-
その他	82	96
営業外費用合計	621	332
経常損失(△)	△609	△1,503
特別利益		
固定資産売却益	2	5
投資有価証券売却益	122	196
受取補償金	-	※1 431
特別利益合計	124	633
特別損失		
固定資産除売却損	171	343
減損損失	※2 1,635	-
投資有価証券評価損	0	-
事業整理損	※3 51	-
特別損失合計	1,858	343
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,342	△1,213
法人税、住民税及び事業税	554	598
法人税等調整額	63	△115
法人税等合計	617	483
四半期純損失(△)	△2,960	△1,697
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△239	△1,115
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,721	△582

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△2,960	△1,697
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△628	1,724
為替換算調整勘定	2,059	1,243
退職給付に係る調整額	△121	△167
その他の包括利益合計	1,309	2,801
四半期包括利益	△1,651	1,103
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,605	2,059
非支配株主に係る四半期包括利益	△46	△955

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 受取補償金の内容

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当社の連結子会社である千葉アルコン製造株式会社における、水素化石油樹脂製造設備の不具合を原因とする損害に対する補償金であります。

※2 減損損失の内容

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
荒川ヨーロッパ社 (ドイツ ベーレン市)	製造設備	建物および機械装置等	1,635

当社グループは、概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位によって資産をグルーピングしております。

上記資産については、欧州における天然ガスおよび水素価格の歴史的な高騰や原材料事情の悪化から急速に製造コストが上昇、前期末時点で想定していた収益を見込めなくなり、荒川ヨーロッパ社における製造終了を決定したため、製造設備の帳簿価額全額を減損損失(16億35百万円)として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物1億13百万円、機械装置及び運搬具12億79百万円およびその他2億41百万円です。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、使用価値については、将来キャッシュ・フローをマイナスと見込んでいるため、回収可能価額をゼロとして算定しております。

※3 事業整理損の内容

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

当社の連結子会社である荒川ヨーロッパ社における製造終了を決定したことにもなう一時費用を計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	機能性 コーティング	製紙・環境	粘接着・ バイオマス	ファイン・ エレクトロ ニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	12,107	15,808	23,438	9,874	61,229	171	61,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	41	41
計	12,107	15,808	23,438	9,874	61,229	213	61,442
セグメント利益又は損失(△)	393	275	△1,959	374	△916	29	△887

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産管理等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△916
「その他」の区分の利益	29
全社費用の配賦差額(注) 1	△90
コーポレート研究開発費用(注) 2	△301
営業外損益(注) 3	289
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△990

- (注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。
 2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。
 3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「粘接着・バイオマス」において、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16億35百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	機能性 コーティング	製紙・環境	粘接着・ バイオマス	ファイン・ エレクトロ ニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,051	15,562	18,843	8,196	53,654	58	53,713
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	26	26
計	11,051	15,562	18,843	8,196	53,654	84	53,739
セグメント利益又は損失(△)	325	908	△2,796	△206	△1,769	27	△1,742

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産管理等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△1,769
「その他」の区分の利益	27
全社費用の配賦差額(注) 1	379
コーポレート研究開発費用(注) 2	△294
営業外損益(注) 3	△257
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△1,914

- (注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。
 2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。
 3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。